

1 人口構造の分析

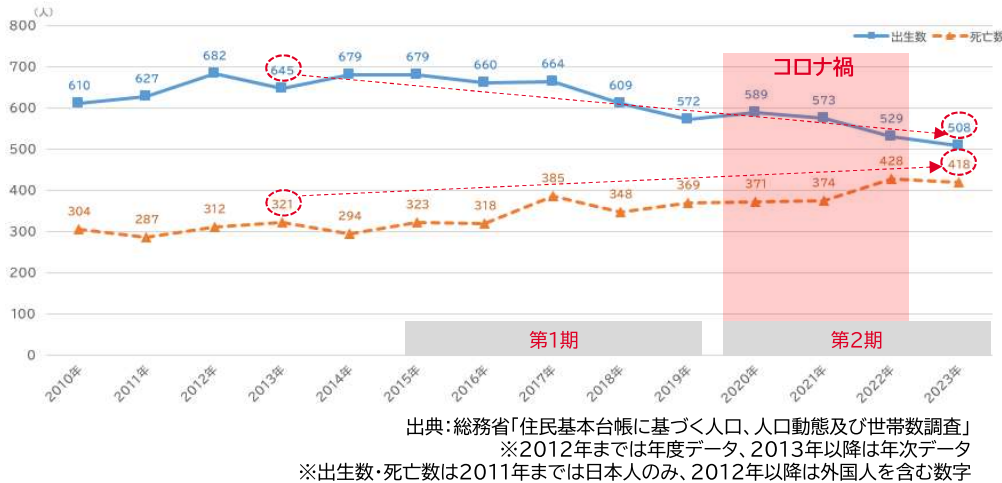
資料 4

- ①人口動態（自然動態）自然増を維持しているが、自然増加数は減少傾向にある。
（社会動態）2022年まで社会増が続いていたが、2023年、社会減に転じた。転入数も低下傾向にある。

自然動態

- 第1期・第2期の期間通じて自然増となった。
- 出生数は、2010年代と比較して近年減少傾向にあり、2023年の出生数は、10年前（2013年）の78.8%に低下している。
- 死亡数は増加しており、2023年は10年前（2013年）の130.2%となっている。

図表1-1 出生数・死亡数の推移



社会動態

- 第1期期間の2016年、第2期期間の2023年は社会減であったが、それ以外の年は社会増であった。
- 転入数は2019年頃から減少傾向にある。一方、転出数は2020年に抑制されたが、それ以降増加傾向となっている。
- 20・30歳代女性は2010年代以降転入超過であるが、近年、20歳代前半女性の転入数が減少傾向にある。20・30歳代女性の近隣自治体との間の転出入に着目すると、金沢市から野々市市への転入数は低下傾向にあり、金沢市から白山市への転入が増えつつある。

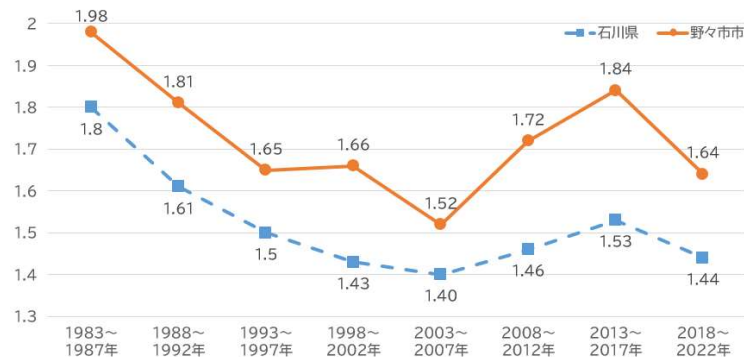
図表1-2 転入数・転出数の推移



2 自然動態の分析

①合計特殊出生率 ～高水準だが低下傾向

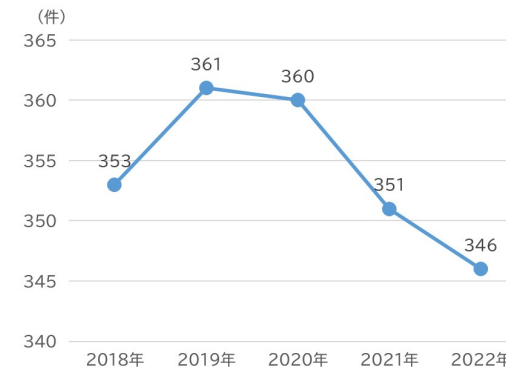
図表2-1 石川県・野々市市の合計特殊出生率の推移



- 当市の合計特殊出生率は石川県よりも高い水準にある。
- 2003～2017年にかけては上昇傾向にあったが、2018～2022年は下降に転じている。

②婚姻数 ～減少傾向

図表2-2 野々市市の婚姻数の推移



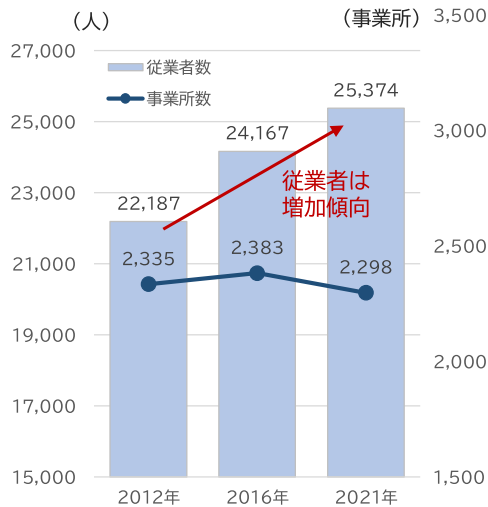
- 婚姻数は、新型コロナウイルスの影響もあり、2019年以降、減少に転じ、低下している。

3 事業所、従業者数の分析

①事業所数・従業者数の推移 ～当市の産業を支えるのは第三次産業、特に卸売業・小売業。教育・学習支援業や医療・福祉分野が堅実に成長。

- ◆ 従業者数は増加している。2016年から2021年は1,207人増加し、増減率は5.0%である。
- ◆ 一方事業所数は減少しており、2016年から2021年の増減率は-3.6%である。
- ◆ 事業所数・従業者数ともに、最多は「卸売業、小売業」で、第三次産業が当市の産業を支えている。
- ◆ 事業所数・従業者数ともに堅調に増加しているのは、「学術研究、専門・技術サービス業」、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」である。
- ◆ 「運輸業、郵便業」、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」では事業所数が減少するとともに従業者数が増加しており、大規模化が進んでいる。

図表3-1 事業所総数と従業員総数の推移



出典：総務省「経済センサス-活動調査」

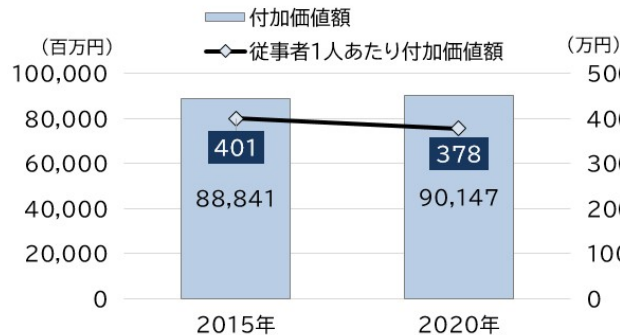
図表3-2 産業別 事業所数と従業員数の推移

産業大分類	事業所数(事業所)					従業員数(人)				
	2012年	2016年	2021年	増減(2016年→2021年)		2012年	2016年	2021年	増減(2016年→2021年)	
				実数	率				実数	率
1 農林漁業	1	3	3	0	0.0%	1	18	8	-10	-55.6%
2 建設業	256	231	206	-25	-10.8%	1,769	1,544	1,451	-93	-6.0%
製造業	124	115	106	-9	-7.8%	2,196	1,917	1,902	-15	-0.8%
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	2	-	-	-	-	5	-	-
情報通信業	13	19	18	-1	-5.3%	167	337	200	-137	-40.7%
運輸業、郵便業	45	52	47	-5	-9.6%	659	1,181	1,213	32	2.7%
卸売業、小売業	650	685	618	-67	-9.8%	7,019	7,582	8,166	584	7.7%
金融業、保険業	42	37	41	4	10.8%	386	374	331	-43	-11.5%
不動産業、物品賃貸業	200	209	184	-25	-12.0%	617	773	607	-166	-21.5%
学術研究、専門・技術サービス業	82	85	101	16	18.8%	441	471	547	76	16.1%
宿泊業、飲食サービス業	317	322	292	-30	-9.3%	3,024	3,229	3,624	395	12.2%
生活関連サービス業、娯楽業	255	260	272	12	4.6%	1,760	1,723	1,352	-371	-21.5%
教育、学習支援業	66	69	88	19	27.5%	846	1,180	1,416	236	20.0%
医療、福祉	144	167	191	24	14.4%	2,365	2,624	3,028	404	15.4%
複合サービス事業	11	10	11	1	10.0%	101	79	90	11	13.9%
サービス業(他に分類されないもの)	129	119	118	-1	-0.8%	836	1,135	1,434	299	26.3%
合計	2,335	2,383	2,298	-85	-3.6%	22,187	24,167	25,374	1,207	5.0%

出典：総務省「経済センサス-活動調査」

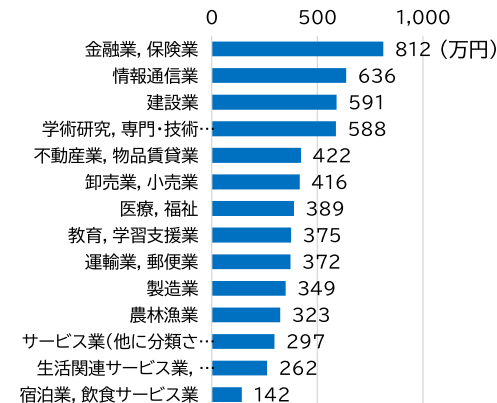
②付加価値額 ～市全体は増加傾向。従業者1人あたりでは、「金融業・保険業」、「情報通信業」、「建設業」の順に大きくなっている。

図表4-1 付加価値額の推移



【参考】付加価値額
・企業が生産活動により産出した価値を数値を表したもの。
・主に売上高から外部で調達した価格を差し引いた額で表す。

図表4-2 産業別従業者1人あたり付加価値額(2020年)



- ・ 2015年から2020年と比較すると、付加価値額は888.4億円 → 901.5億円に増加している。
- ・ 従業員の増加に伴い、従業者1人あたりでは、401万円 → 378万円に減少している。
- ・ 従業者1人あたりでは、①「金融業・保険業」、②「情報通信業」、③「建設業」の順に大きくなっている。

出典：総務省「経済センサス-活動調査」

4 今後の方向性

現状の整理

- **新型コロナウイルス等の影響もあり人口増加が鈍化**
 - ・ 自然動態は、自然増を維持しているものの、増加幅が減少傾向にある。
 - ・ 社会動態は、社会増が続いていたが、2023年は7年ぶりに「社会減」となった。
- **出生数の減少が懸念される**
 - ・ 合計特殊出生率は県よりも高い水準を維持している。
 - ・ しかしながら、婚姻数の減少や価値観の多様化、ライフスタイルの変化等により、今後、出生数の更なる減少が懸念される。
- **20・30歳代の女性人口に減少の兆しがある**
 - ・ 20・30歳代女性の社会動態を分析すると、20歳代前半女性の転入数が減少傾向にある。
 - ・ 20・30歳代女性の主な転出先は、「金沢市」、「白山市」である。近年、「白山市」への転出が増加傾向である。野々市市に住み、白山市で働く人が増える中、職場に近い場所への移住の流れが懸念される。
- **市内の事業所は減少しているが、従業者数は増加している。**
 - ・ 事業所は減少している一方で、従業者数は増加しており、大規模化が進んでいると考えられる。
 - ・ 2020年の付加価値額は901.5億円と増額しているが、従業員数の増加により、従業者1人あたりでは減少している。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症等の影響により、自宅で働く人が増えている傾向にある。

将来の方向性

人口増加が鈍化する中、若者に選ばれるまちになるために、国の方向性も勘案した上で、「ののいちデジタル田園都市構想総合戦略」の方向性を維持し、施策を展開していく。

ひとに関する方向性:

若い世代に選ばれ、安心して暮らせる環境づくり

- 20・30歳代の若者に選ばれ、住み続けたいまちへの取組の強化
- 出生率の向上をめざした、仕事と子育ての両立など子育てしやすい環境づくり

しごとに関する方向性:

野々市の発展と市民の生活を向上させる産業の創出・育成

- 若者に選ばれる産業の創出・育成
- 関係機関等と連携した女性や若者の市内等への就職促進
- 誰もが自分らしい働き方ができる環境づくりの推進

まちに関する方向性:

各関係機関との連携によるまちの基盤充実

- 野々市ファンの創出と拡大
- 大学や企業とのさらなる連携による取り組みの推進

デジタル技術の活用

SDGsの推進